

まあ日刊ゲノム新聞 —科学と社会特集—

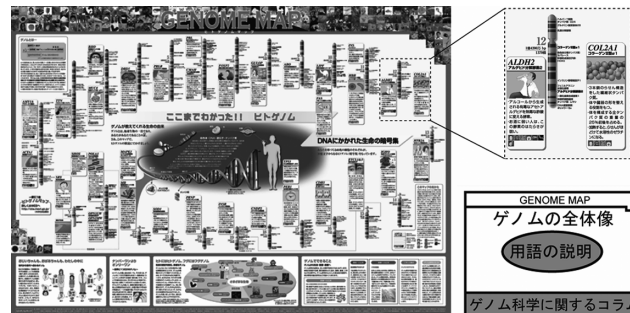
展示責任者 加藤和人(京都大学人文科学研究所、大学院生命科学研究所)



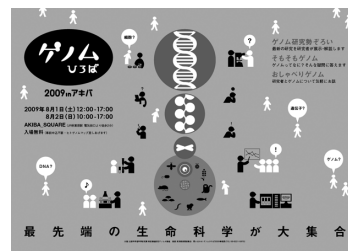
ゲノムやゲノム研究と聞いて、皆さんは何を思い浮かべるでしょうか。言葉は知っていても自分との関わりはよくわからない？あるいは日頃からいろいろ考えていて、研究者に意見を言いたい、という人もいるかもしれません。私たちの研究室では、ゲノムとは何か、ゲノム研究と社会がどのように関わるかについて、社会に伝え、ともに議論していくための研究と活動を行っています。今回はその中から2つの例を紹介します。

○ゲノム研究と教育 ヒトゲノムに焦点を当てたゲノム科学への導入のための教育プログラムを開発しました。このプログラムは一家に1枚ヒトゲノムマップとゲノム科学の基礎に関するアニメーションを用いていることが特徴です。生徒達がこのプログラムからヒトゲノムについて学習したと感じ、理解がいくらか上昇することを見いだしました。

○ゲノムひろばのコーディネート ゲノムひろばの企画・運営をしています。今年で13回目を迎えるゲノムひろばには、延べ約2,100人の研究者、延べ約14,000人の来場者が参加しました。この研究者・来場者にアンケートを行い、ゲノム研究者が市民と対話することによってどのような影響があったのかを調べました。



一家に1枚ヒトゲノムマップ <http://www.lif.kyoto-u.ac.jp/genomemap/>



ゲノムひろば2009